

2021年2月2日 NEWS RELEASE No.180

『第15回 しょうゆ感想文コンクール』入賞者決定！
—全国の小学生(3年～6年)から、549点の応募—

日本醤油協会(会長 堀切功章)では「食育」推進の一環として、「第15回しょうゆ感想文コンクール」を実施いたしました。

この感想文コンクールは、食育事業の一環として協会が実施している企画で、全国の小学生(3年生～6年生)を対象に、出前授業で学んだことや工場見学で体験したこと、また、好きなしょうゆ料理にまつわる思い出などを感想文という形で記録にとどめることを目的に、広く自由な発想の感想文を募集するものです。

昨年12月4日(金)に応募を締め切り、全国の児童から3つの部門に合計549点の応募をいただきました。それぞれの部門に日本の伝統調味料である“しょうゆ”について、子供らしい感性豊かな感想文が数多く寄せられました。

去る1月25日(月)に、下記の選考委員による「審査委員会」を開催し、厳正な審査の結果、別紙のとおり、各部門の入賞作品を決定いたしました。

なお、「審査委員会」では、予備審査を通過した44点の作品の中から、創造性(構想力)、文章力、発展性等を選考基準として厳正な選考を行いました。

《第15回「しょうゆ感想文コンクール」審査委員(敬称略・順不同)》

奈須正裕 (上智大学 教授)
白岩 等 (昭和学院小学校 教頭)
福留奈美 (東京聖栄大学 准教授)
増田修治 (白梅学園大学 教授)
正田 隆 (醤油PR運営委員会 委員長)
般若攝也 (日本醤油協会 専務理事)

また、「第16回 しょうゆ感想文コンクール」は、本年4月より開始いたします。(応募締め切り:2021年12月3日(金))。これまで以上に全国の多くの児童の皆さんからのご応募をお待ちしています。

第15回しょうゆ感想文コンクール入賞者一覧

2021年2月2日

主催：日本醤油協会

審査委員：奈須正裕（上智大学 教授）

福留奈美（東京聖栄大学 准教授）

正田 隆（醤油PR運営委員会 委員長）

白岩 等（昭和学院小学校 教頭）

増田修治（白梅学園大学 教授）

般若攝也（日本醤油協会 専務理事）

賞名	受賞者詳細			
1. 最優秀賞 (各部門1点・計3点) ※工場見学部門は該当なし	出前授業部門	しょうゆのひみつ発見		すずき せな 鈴木 星南
	静岡県	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	小学部3年	
	好きなしょうゆ料理部門	僕の夢		きた ひろかず 北 拓憲
	北海道	富良野市立鳥沼小学校	4年	

2. 優秀賞 (各部門1点・計3点)	出前授業部門	しょうゆのひみつ、わかったよ		みずしま ここな 水嶋 心菜
	静岡県	磐田市立磐田中部小学校	3年	
	工場見学部門	甘じょっぱいしょうゆかすの思い出		ましやま じゅう 増山 慈雨
	埼玉県	西武学園文理小学校	4年	
好きなしょうゆ料理部門	ばあちゃんの魔法のレシピ（竹の子ご飯編）		そめや はるか 染谷 春花	
茨城県	常総市立豊田小学校	5年		

3. 佳作 (各部門5点・計15点) ※工場見学部門は2点該当なし	出前授業部門	しょうゆについて		いまい しょうご 今井 荘吾
	北海道	富良野市立鳥沼小学校	4年	
	出前授業部門	しょうゆはかせが来たよ		みうら ひより 三浦 日愛
	宮城県	仙台市立鶴谷小学校	3年	
	出前授業部門	しょうゆ出前こうごを受けて		うめはら めぐみ 梅原 恵
	静岡県	磐田市立磐田中部小学校	3年	
	出前授業部門	しょうゆっておもしろい		まつい みお 松井 未緒
	静岡県	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	小学部3年	
	出前授業部門	世界で大切なしょうゆ		にしむら くくり 西村 菊理
	山口県	防府市立佐波小学校	3年	
	工場見学部門	しょうゆ工場を見学して		なりさわ りん 成澤 凜
	群馬県	桐生市立神明小学校	5年	
工場見学部門	木のおけでしこむしょうゆの見学		ましやま ゆう 増山 優雨	
埼玉県	西武学園文理小学校	4年		
工場見学部門	しょうゆこうじょうけんがくへのみち		みやざき たいき 宮崎 泰樹	
和歌山県	和歌山県立紀北支援学校	6年		

	好きなしょうゆ料理部門	おばあちゃんの焼きおにぎり		こばやし えいと 小林 瑛人
	埼玉県	飯能市立富士見小学校	5年	
	好きなしょうゆ料理部門	しょうゆはりょう理の名わき役		きとう やすか 佐藤 穂佳
	千葉県	昭和学院小学校	3年	
	好きなしょうゆ料理部門	わたしだけのしょうゆりょう理		ひらやま えみ 平山 恵美
	千葉県	昭和学院小学校	3年	
	好きなしょうゆ料理部門	手作りチャーシュー		みつお りこ 三尾 莉子
	千葉県	昭和学院小学校	3年	
	好きなしょうゆ料理部門	うちのごはんに大活やく		かも なつみ 加茂 夏弥
	静岡県	磐田市立磐田中部小学校	3年	

賞名	都道府県名	学校名
団体奨励賞 (1校)	北海道	富良野市立鳥沼小学校

※学年は2020年度です

※西村菊理さんの「西」は「価」のつくりです

「第15回しょうゆ感想文コンクール」最優秀賞 講評

審査委員会審査委員長 上智大学 教授 奈須正裕

●出前授業部門 最優秀賞

題名：しょうゆのひみつ発見

鈴木 星南 さん（静岡県・静岡県立浜松聴覚特別支援学校 小学部3年）

しょうゆにはリンゴやバラなど三百種類のかおりがあると教わっても、そこで終わるのではなく、「他にもどんなかおりがあるのか」が気になって仕方がない「わたし」。しょうゆの種類についても、お母さんの「ちがいはないよ」という言葉にすぐには納得せず、「本当かな」と疑問を持ち、「なめてみたい」と探究への意欲を高めます。まさに、「しょうゆのひみつ」を自らの手で「発見」せずにはいられないのです。

「もろみをなめてみたら、すごくしょっぱかったけれど、野菜と食べればちょうどよさそうでした」といった豊かな想像性も、出前授業での体験を自分ごとの学びにしようとするからこそ、立ち現れてくるものに違いありません。作文は「いつか自分でしょうゆをつくってみたいです」で締めくくられますが、これ程にシンプルにして学びへの力強い意志を感じさせる表現は他にはないでしょう。新時代の学びを象徴する、素敵な作品です。

●好きなしょうゆ料理部門 最優秀賞

題名：僕の夢

北 拓憲 さん（北海道・富良野市立鳥沼小学校 4年）

卵かけご飯のおいしさを、理路整然と説得的に熱弁している点に驚かされました。まず、「卵ほどしょうゆと相性抜群の食べ物はない」とし、その理由を「卵の甘さとしょうゆの塩味がぜつみょうに合って」いるからだと分析します。そして、卵焼き、煮卵、目玉焼きを挙げ、どれもおいしいとしながらも、「卵かけご飯は、卵としょうゆとご飯だけしか使わないので、しょうゆのおいしさがダイレクトに感じられる」がゆえに、「しょうゆの香りを一番たのしむことができる」と断言するのです。また、だからこそ「しょうゆの種類を変えると、味が別物になる」「全国の、色々な地域のしょうゆを、ご飯にかけて試してみたい」と、卵かけご飯の魅力を存分に語ります。

卵かけご飯の作り方の描写も、リアルでスピード感に満ち溢れています。卵かけご飯への「愛」を感じさせる、カラフルで読み応えのある作品です。

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター（醤油PR協議会）
大関 恒雄（事務局長）、中川美代子
住所 東京都中央区日本橋小網町3-11（〒103-0016）
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216
URL : <https://www.soy sauce.or.jp/> E-mail : soyic@soysauce.or.jp